

何故 複素誘電率が  $\tilde{\epsilon} \equiv \epsilon_0 \epsilon_r (1 - j \tan \delta) - j \frac{\sigma}{\omega}$  なるのでしょうか？

---

( $\nabla \times H$ )を含むマクスウェル方程式から考えます。  
正弦波で振動しているとして、 $\partial / \partial t$  を  $j\omega$  に置き換えると、次のように書けます。 $\omega$ は角周波数です。

$$\nabla \times H = j\omega D + J \quad (1)$$

$$D = \epsilon E \quad (2)$$

$$J = \sigma E \quad (3)$$

E:電場、H:磁場、D:電束密度、J:電流密度、 $\epsilon$ :誘電率、 $\sigma$ :導電率  
誘電率は、比誘電率 $\epsilon_r$ 、真空中の誘電率 $\epsilon_0$ 、誘電正接 $\tan \delta$ 、を使って次式のように、複素数で表現する事ができます。

$$\epsilon = \epsilon_0 \epsilon_r (1 - j \tan \delta)$$

これを(1)式に代入します。

$$\begin{aligned} \nabla \times H &= j\omega D + J \\ &= j\omega \epsilon E + \sigma E \\ &= \{j\omega \epsilon_0 \epsilon_r (1 - j \tan \delta) + \sigma\} E \\ &= j\omega \left\{ \epsilon_0 \epsilon_r (1 - j \tan \delta) - j \frac{\sigma}{\omega} \right\} E \\ &= j\omega \tilde{\epsilon} E \end{aligned}$$

この検討により、複素誘電率を次のように置くことも可能なことが分かりました。

$$\tilde{\epsilon} \equiv \epsilon_0 \epsilon_r (1 - j \tan \delta) - j \frac{\sigma}{\omega}$$